

目指す学校像	互いを認め、個性と良識を磨き合う学校づくり～学ぶ喜びと豊かな心・安心安全と信頼・協働～
--------	---

重点目標	1 効果的なICT活用及びアクティブ・ラーニングを推進し、生徒の学びに向かう意欲を高める。 2 基本的な感染対策及び生徒の事故やケガを減少させるための指導を推進する。 3 コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を設置し、学校運営の充実を図る。 4 教育の質を落とさずに、教職員の負担軽減と在校時間の縮減を図る。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度							実施日令和5年2月8日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに全国、県平均と比べ概ね良好な結果である。 ○R2年度 さいたま市教育委員会研究指定 研究領域「さいたま STEAMS 教育」を受けている。 ○R3年度 さいたま市教育委員会研究指定 研究領域「小・中一貫教育」を受けている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の「生活習慣等に関する調査」における「10. 家で自分の計画を立てて勉強していますか」の質問に肯定的な回答の割合は全国・県を上回っているが7割弱と課題である。 ○さいたま市教育委員会研究指定 研究領域「さいたま STEAMS 教育」の研究発表を1月に実施予定である。	生徒の学びに向かう意欲を高める取組の実施	①効果的なICT活用に向けた研修の実施(年複数回及びデータベース化) ②学校研究課題「STEAMS教育の推進」(カリキュラム・マネジメント)の実践及び研究発表(通年) ③学習指導検討会議による全国学習状況調査の分析及び学力ポートフォリオの作成及び具体的な手立ての実践(月1回以上) ④学校研究課題「小・中一貫教育の推進」(通年) ⑤各学年における学期はじめの2者面談の実施(年3回以上) ⑥いじめ撲滅目安箱の設置及び効果的な運用による指導の実現(通年)	・学校評価の肯定的な割合「アクティブ・ラーニング型授業」生徒結果の「十分である」の60%以上(R3・2・3年60%未満) ・「TPC活用」生徒結果の90%以上(R3・全学年90%未満) ・教科横断的な授業の実施(全教科) ・生活記録ノートと学習計画表をテスト期間中に活用させる。(全学年) ・「望ましい集団及び職員の相談体制」の生徒結果「十分である」の65%以上(R3・2・3年65%未満)	○学校評価の肯定的な割合「アクティブ・ラーニング型授業」生徒結果の「十分である」の60%以上(R3・2・3年60%未満)→R4・2年71.5%・3年61.2%【119%及び102%達成】 ○「TPC活用」生徒結果の90%以上(R3・全学年90%未満)→R4・1年78.6%・2年87.7%・3年89.5%【87.3%・97.4%・99.4% 達成】 ○教科横断的な授業の実施(全教科)→100%達成 ○生活記録ノートと学習計画表の形式を合わせた計画表を作成し活用した。→100%達成 ○「望ましい集団及び職員の相談体制」の生徒結果「十分である」の65%以上(R3・2・3年65%未満)→R4・2年61.9%・3年62.6%【95.2%及び96.3%達成】	A	①～⑥の方策について計画的に継続推進するとともに、研究の推進及び生徒の学びに向かう力を高めることに努め、来年度のSTEAMS TIME 及び小・中一貫教育の研究の充実につなげる。また、方策③について、生活記録ノートと学習計画表の形式を合わせた計画表の試行版による3回の実践を経て、完成した計画表により、来年度も家庭学習の定着を図る。	・計画を立てて学習に取り組むことは、結果だけでなく学習の過程に目を向けることができ、学習に向かう態度の育成につながるため、引き続きの実施を期待する。 ・ICT活用やアクティブ・ラーニング型授業及びSTEAMS教育の推進は評価できる。これまで以上に主体性や思考力等の育成が期待される。 ・細かな指導による心の安定が学力向上につながっていると感じられる。 ・学校評価結果の分析とそれを活用した検証改善が必要である。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国・県平均を上回った。 ○パンデミックとなった3回目の新年度である。 ○R2年度、熱中症やR3学校敷地内の垣根に害虫発生した。また、R4年度下校中の交通安全で心配な状況があった。 (課題) ○基本的な感染拡大防止策実施の長期化とそれに伴ったマスク着用。また、大規模校につき、一斉下校時の歩道等の過密化が課題である。 ○コロナ禍の為、運動不足等による怪我が懸念される。 ○コロナ禍の為、生徒・保護者との協働による除草作業ができない。また、部活動の時間も限られているので生徒のみの除草作業も困難である	安全・安心な教育環境の整備 安全・安心な教育の実施	①基本的な感染対策の実践(通年) ②教育環境連絡会の実施(毎週1回) ③校内安全点検の実施(定期及び臨時) ④熱中症防止のための指標計の設置及び監視・周知体制の構築(5～10月頃) ⑤部活動実施時間の工夫(夏季) ⑥PTAとの協働による下校見守り体制の構築(年5回) ①教育環境連絡会の実施(毎週1回) ②年間指導計画の工夫による学校行事の実施(2学期) ③子ども自転車運転免許交付にかかわる講習の実施(中1、年1回) ④交通安全指導(通年) ⑤怪我マップの作成及び活用(通年) ⑥熱中症予防外部講師招聘による講習会(1学期)	・学校評価の肯定的な割合「安全な生活・教育環境の提供」生徒・保護者結果の「十分である」の60%以上(R3・3年、保護者60%未満)→R4・3年57.9%、保護者28%【96.5%及び46.7%達成】 ・「施設・設備の充実」保護者結果の前年度比アップ(R3・78.9%) ・救急搬送の減少(R3・3回) ・①～⑥の100%実施	○学校評価の肯定的な割合「安全な生活・教育環境の提供」生徒・保護者結果の「十分である」の60%以上(R3・3年、保護者60%未満)→R4・3年57.9%、保護者28%【96.5%及び46.7%達成】 ○「施設・設備の充実」保護者結果の前年度比アップ(R3・78.9%)→R4・72%【91.3%達成】 ○救急搬送の減少(R3・3回)→R4・1回【100%達成】 ○①～⑥について計画的に推進できた。	B	①～⑥の方策について計画的に継続推進し、生徒ボランティア制度を活用するとともに小・中一貫教育に生かす。	・学校がよりなど情報発信について適切に行われており、学校内のことが分かりとてもよい。 ・スケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教育等、交通ルールを守る指導は重要である。指導の際は、保護者参加も検討してほしい。 ・コロナ禍の状況下で「学校に行くのが楽しい」生徒の割合が多い結果は、とてもよい。 ・施設・設備の充実について、保護者の学校評価結果の低下について分析が必要である。 ・部活動指導員、サポーターの積極的な導入、ナイター設備の設置、怪我マップの活用など、更なる教育環境整備が求められる。
3	(現状) ○令和3年度の学校運営協議会準備委員会を経て、令和4年度より学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなった。 ○PTAと連携・協働してコロナ禍における教育活動の充実及び情報発信の在り方について、検証・改善に取り組んでいる。 (課題) ○学校運営協議会での熟議等により、地域が目指す「育成したい子ども像」を共有し、その実現に向けた取組を創出し、実施していくことが課題である。また、実施にあたって検証・改善を行っていくことで、持続可能な運営体制を構築していくことが重要である。	家庭・地域との連携充実のための取組の実施 学校運営協議会を基盤とした学校・家庭・地域の連携・協働体制の構築	①学校がより、学校ホームページ、学校安心メール、PTA情報サイト、コミスク掲示板の設置等を活用した積極的な発信(月1回以上) ②TPC及びネットワークを活用した家庭との連携強化の実現(通年) ③PTAとの協働による教育活動の実践(学期3回以上) ④小・中合同引渡し訓練の実施(1学期) ①三位一体となった行事運営に向けた学校運営協議会の熟議(年3回以上) ②学校と地域との協働による南区避難所運営訓練の実施 ③学校と地域が連携した地域行事の実施 ④地域の方々との会食(年2回以上)	・学校評価の肯定的な割合「期待や願いへの満足感」、「個性を生かした教育活動」の保護者結果前年度比アップ(R3・79.6%、83.5%)→R4・82.3%、74.1%【103%及び89%達成】 ・地域・保護者との行事の実施(年5回以上)	○学校評価の肯定的な割合「期待や願いへの満足感」、「個性を生かした教育活動」の保護者結果前年度比アップ(R3・79.6%、83.5%)→R4・82.3%、74.1%【103%及び89%達成】 ○地域・保護者との行事の実施(年5回以上)【100%達成】	A	①～④の方策について計画的に継続推進するとともに、スケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教育の実施及び小・中一貫によるBLS教育を実施する。	・内谷中ボランティア制度への応募数が多いことから、生徒会主導に移行した際の大きな可能性を感じる。内谷中と地域等との協働体制構築につながる素晴らしい取組である。参加した生徒も主体的に活動していた。今後さらに中学生と地域との交流を深めたい。また、中学生との協働的な活動の場を増やしたい。 ・個性を生かした教育活動は重要な視点である。個性を認め一人ひとりに寄り添うことで、自己肯定感や主体性がはぐくまれることを期待する。
4	(現状) ○個人情報の紛失や、生徒への不適切な指導等について、管理職を中心に改善策を実施することで、信用失墜行為に対する教員の意識が高まりつつある。 ○タブレット端末をはじめとしたICTの活用について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ね、教員間の取組の差が縮小されつつある。 (課題) ○信用失墜行為等に対する教員の意識が高まりつつあるが、同僚性や協働性の発揮や働き方改革に対する意識に教員間で差が見られる。 ○タブレット端末等の活用について、教員間の取組の差は縮小したが、スタディサプリ等新たなコンテンツの導入に際し、その活用に差が出ないよう情報を共有し、同一歩調で取り組めるかが課題である。	教育の質を維持し、教職員の負担軽減及び在校時間の縮減を図る取組の実施	①教職員の温かい人的環境、誠実な言語環境の整備(月1回) ②定期テストにおける実技テスト及び1年生の中間テストの実施の仕方の工夫(6月までに) ③スタディサプリの効果的な活用(テスト前及び長期休業中、通年の学習保障) ④個人情報の紛失等の信用失墜行為撲滅の取組の実施(毎月1回以上) ⑤ノー残業ウィークの実施(年7回)	・教職員の意識調査「やりがい」及び「自校の業務改善の取組における負担軽減割合」項目の肯定的な回答率のアップ(やりがいR3・自校90%) ・11・12月の時間外月45h以上人数の減少(R3・51人)	○教職員の意識調査「やりがい」及び「自校の業務改善の取組における負担軽減割合」項目の肯定的な回答率のアップ(やりがいR3・自校90%) ○R3・自校60%→R4、やりがい87.2%、負担軽減53.2%【96.9%及び89.2%達成】 ○11・12月の時間外月45h以上人数の減少(R3・51人)→R4・39人(12/26現在)【100%達成】	B	・方策③スタディサプリについての教科や学年による有効活用の均一化を図る。 →学校として長期休業の課題にするなど ・方策⑤については、取得幅を増やした取組だったが、全員が取得するため、取得方法の改善をする。	・ノー残業ウィークは、業務量との兼ね合いもあるが、意識付けとして必要な取組である。ICTの活用をはじめ業務改善の取組を進める必要がある。 ・ICTを活用した授業に係る研修の充実が求められる。また、家庭学習におけるPC活用を充実させてほしい。